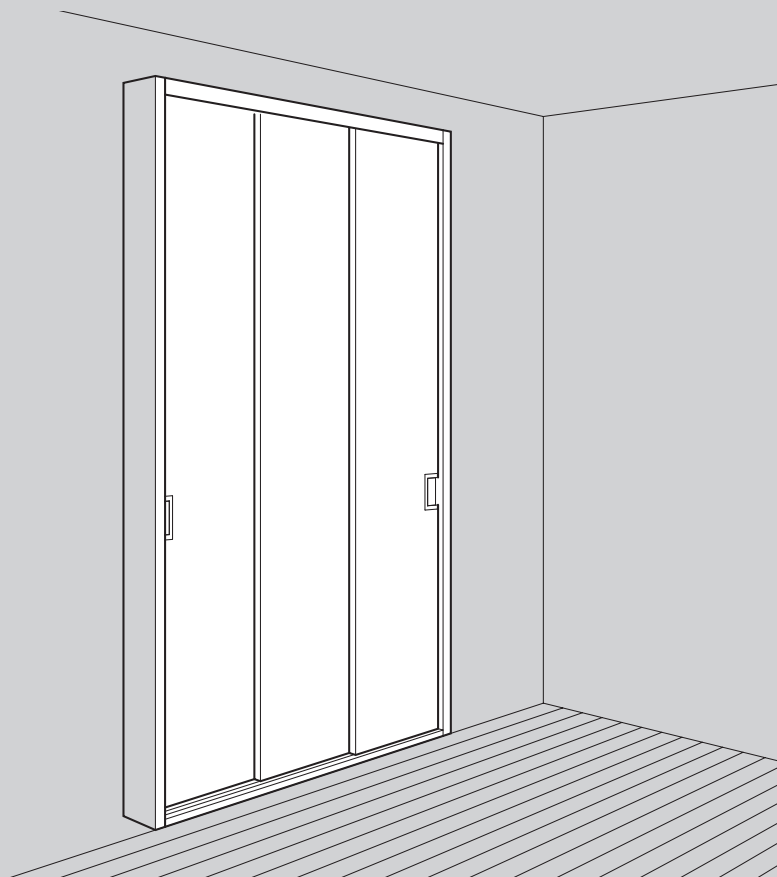


クローク収納 引戸ユニット

「施工業者様へのお願い」

- 弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項やお手入れ方法などの重要な内容を記載した「取扱い説明書」を添付しております。必ず、お施主様に手渡しいただきますようお願いいたします。
(取扱説明書は <https://www.daiken.jp/qr/manual/>よりダウンロード可能です)



もくじ

| | |
|------------|----|
| 1. 安全上のご注意 | 1 |
| 2. 製品寸法図 | 1 |
| 3. 全体図 | 2 |
| 4. 部材・部品表 | 3 |
| 5. 施工方法 | 4 |
| 取扱説明書 | 13 |

- この製品の性能と安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき、手順通りに正しく施工してください。
- この説明書に出てくる **!** マークや **お願い** は、施工上重要な内容が記載されていますので、注意深く読み、よく理解してから作業してください。
- 梱包材、残材、製品を廃棄する際は、法律および地方自治体の規則に基づいて適切に処理して下さい。

■施工の際は以下の工具をご用意ください。

- 電動ドリル（+2番ビット）
- コンバックス等測定機器
- 水準器
- 下げ振り
- ハンマー
- 手回しドライバー

仕様変更履歴

| 年 月 | ページ | 内 容 |
|-----------|-----|-----------|
| 2017/11/6 | 3、4 | 枠組立ビス仕様変更 |
| | | |
| | | |

1. 安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと)

DAIKENクローク収納を長期安全に使えるように施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

危険の定義とシンボルマーク

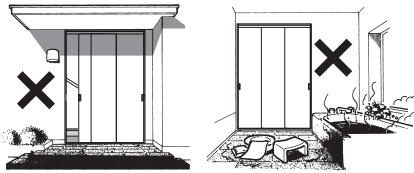
この説明書では、「注意事項」を以下のような定義で使用しています。

⚠ 注意 取扱を誤った場合、施工者または使用者が傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害の発生が想定される場合

施工上のご注意

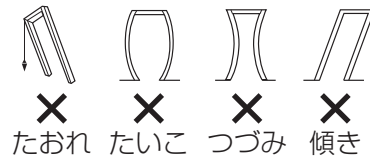
⚠ 注意

●この引戸は一般住宅用の室内用引戸です。他の用途へのご使用はおやめください。



●枠の水平・垂直を確認してから取り付けてください。

— 扉が閉まりにくくなったり、枠との間にスキマができる原因となります。

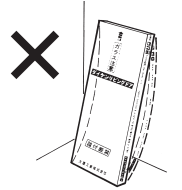


●扉・枠及び金具などをぶつかけたり、運搬時にひきずらないようご注意ください。

— 傷をつけるおそれがあります。



●工事が完成するまでの間、扉はたてかけて保管しないでください。扉は梱包ケースに再度入れ、平積み保管してください。



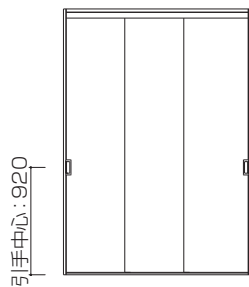
●照明灯、ストーブ等を近づけすぎないでください。— 熱によるシート変色、ふくれ等の原因となります。

●ビスの締めつけ不足、またはビスの締め過ぎによる空回りの状態に注意してください。

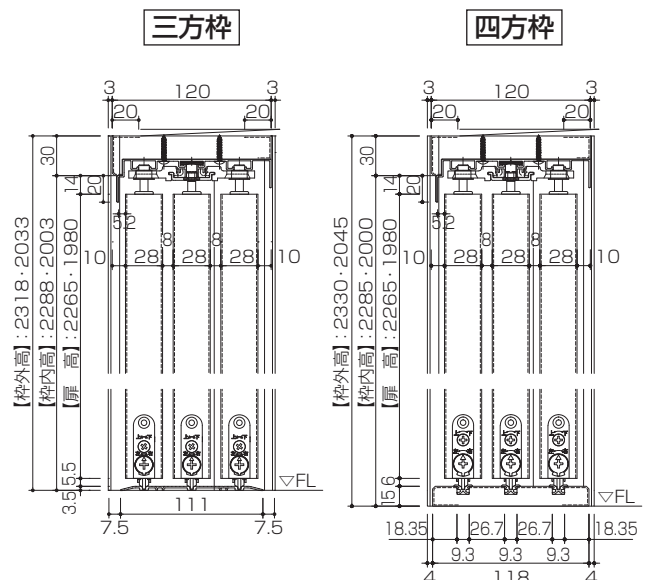
— 製品が外れて、けがや破損のおそれがあります。

2. 製品寸法図

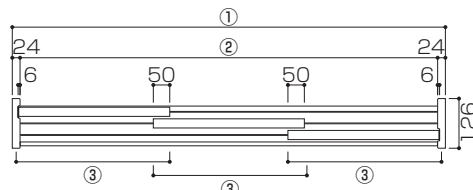
正面図



縦断面図

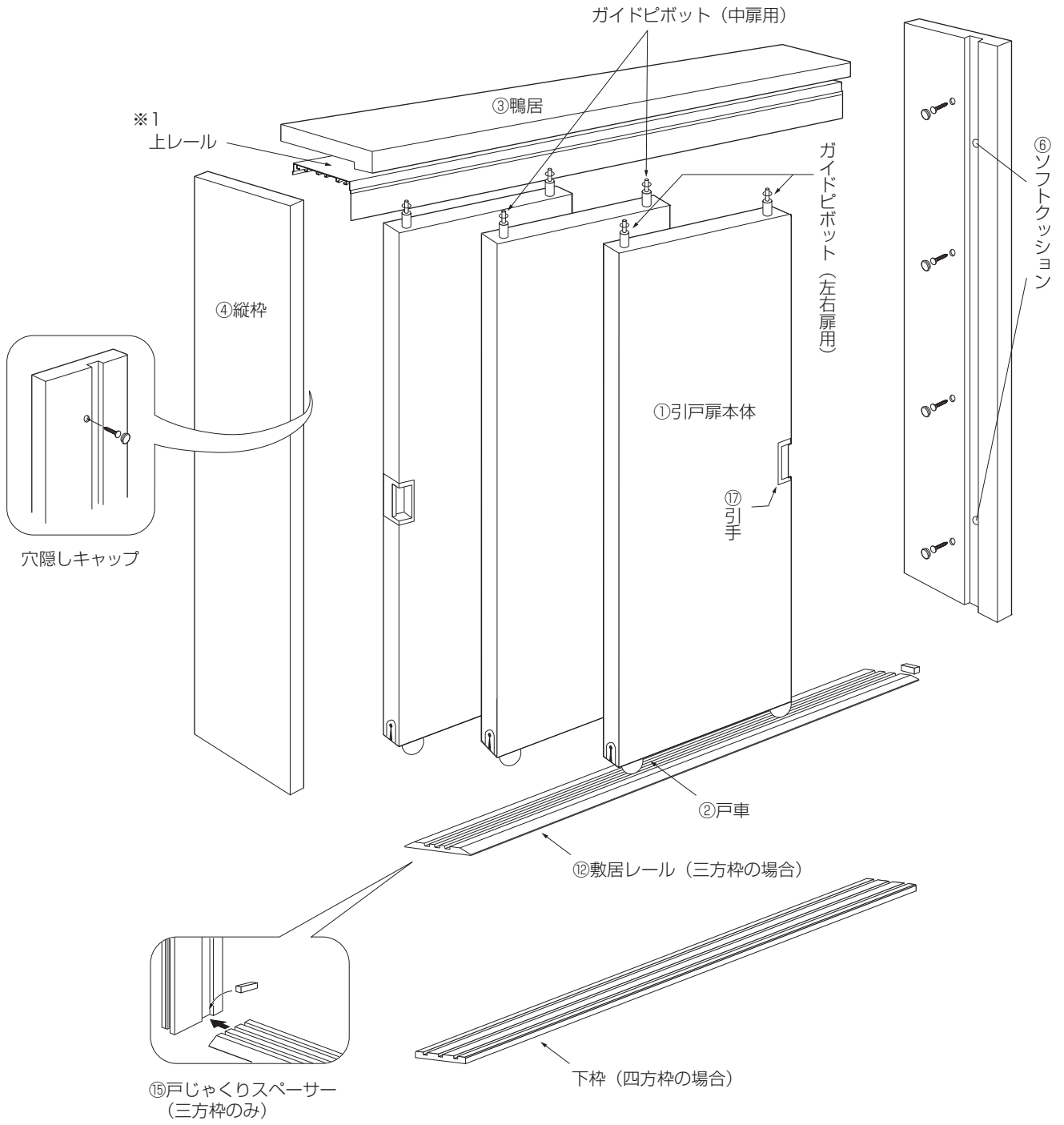


横断面図



| | 4.5R | 6R (小) | 6R | 2M | 9R |
|---|-------|--------|------|-------|-------|
| ① | 1190 | 1644 | 1680 | 1820 | 2450 |
| ② | 1142 | 1596 | 1632 | 1772 | 2402 |
| ③ | 416.5 | 568 | 580 | 626.5 | 836.5 |

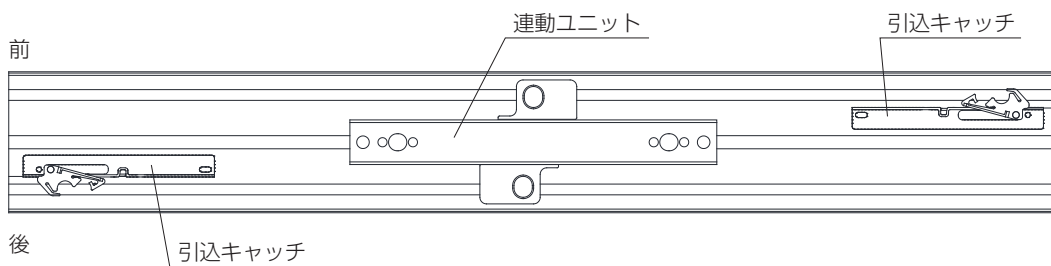
3. 全体図



※1

上レール

上レールには連動ユニットが取り付けられています。



4. 部材・部品表 (施工前に必ず部品を確認してください。)

| | | 部 品 名 称 | 数 量 | 備 考 | |
|--------------------|---------------------|--------------------|------------------|---|---|
| 扉セット | ① | 引戸扉本体 | 3枚 | 3枚の内、1枚は引手なし | |
| | ② | ガイドピボット | 左右扉用(戸先用) | 2本 |  |
| | | | 左右扉用(戸尻用) | 2本 |  |
| | | | 中央扉用 | 2本 |  |
| ③ | ソフトクッション | 4個 | φ8×2 | | |
| 枠セット | ④ | 鴨居 | 1本 | | |
| | ⑤ | 縦枠 | 2本 | | |
| | ⑥ | 金具セット | 枠組立てビス | 4本 | φ3.5×50  |
| | | | 枠組立てビス | 4本 | φ3.5×50 (四方枠の場合のみ)  |
| | | | 枠調整ビス | 11本 | φ5.3×55  |
| | | | 穴隠しキャップ (縦枠用) | 8個 |  |
| | ⑦ | 上レール本体 | 1本 |  | |
| | ⑧ | 連動ユニット | 1セット | レール本体に取付済 | |
| | ⑨ | 引き込みキャッチ | 2個 |  | |
| | ⑩ | 上レール引き込みキャッチ取り付けビス | 14本 | ナベφ3.5×40 | |
| | 敷居 (四方枠の場合) | ⑪ | 敷居本体 | 1本 | |
| | | ⑫ | 下レール | 3本 |  |
| | 床付け下レール (三方枠の場合) | ⑬ | レール本体 | 1本 |  |
| | | ⑭ | 戸じゃくりスペーサー | 2個 |  |
| | | ⑮ | 取り付けビス | 9本 | 皿φ3×12 |
| 引手 (通し引手タイプは無し) | ⑯ | 本体 | 2 |  | |
| | ⑰ | 取り付けビス | 4 | | 皿 φ3.1×16 |

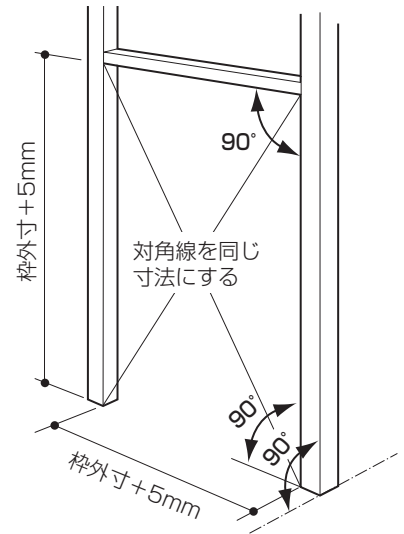
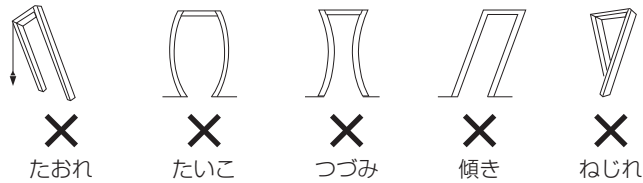
5. 施工方法

準備

●開口部の幅・高さの寸法を十分に確保してください。

⚠注意 柱の垂直・床・まぐさの水平を、下げ振り・水準器でよく確認してください。

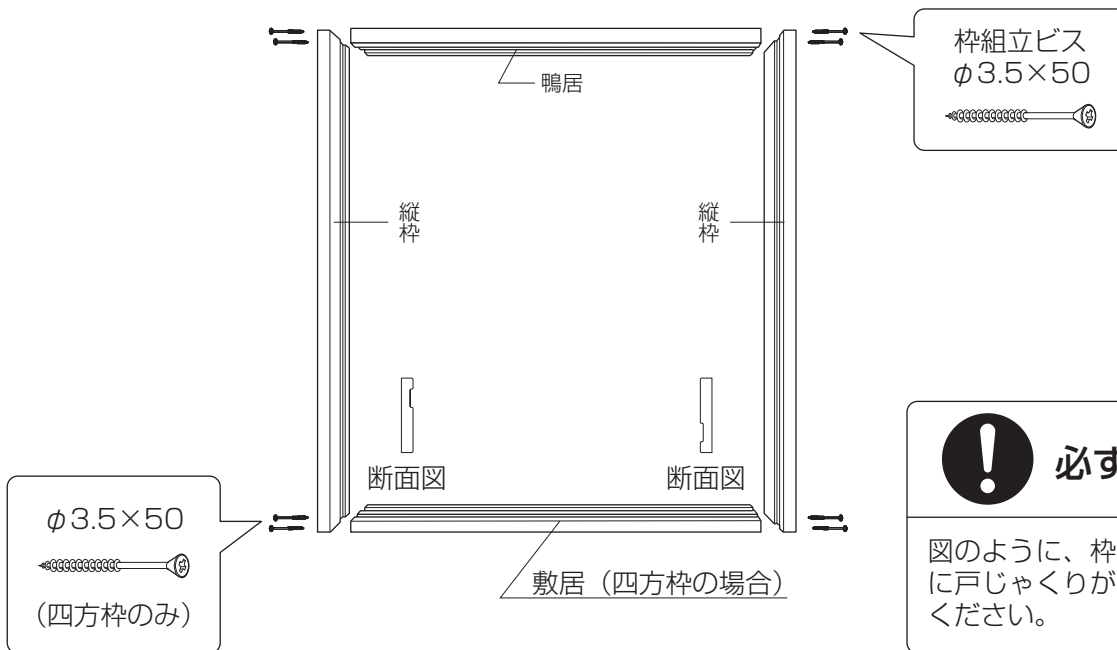
※柱、床、まぐさの水平、垂直がでていないと下図の原因となります。



梱包を開けて部品を確認してください。

枠を組み立ててください。

※縦枠は正寸カット済みです。
組立には同梱の枠組立ビスを使用してください。



5. 施工方法 (P4のつづき)

1. 開口部への枠の取付

① 枠を開口部にはめこんで縦枠の上部を枠調整ビスで仮固定してください。



② 下げ振りをを使って垂直をだし、縦枠の下部を枠調整ビスで仮固定してください。



③ 水準器で上枠の水平を見ながらビスで固定してない方の縦枠の上部を枠調整ビスで仮固定してください。



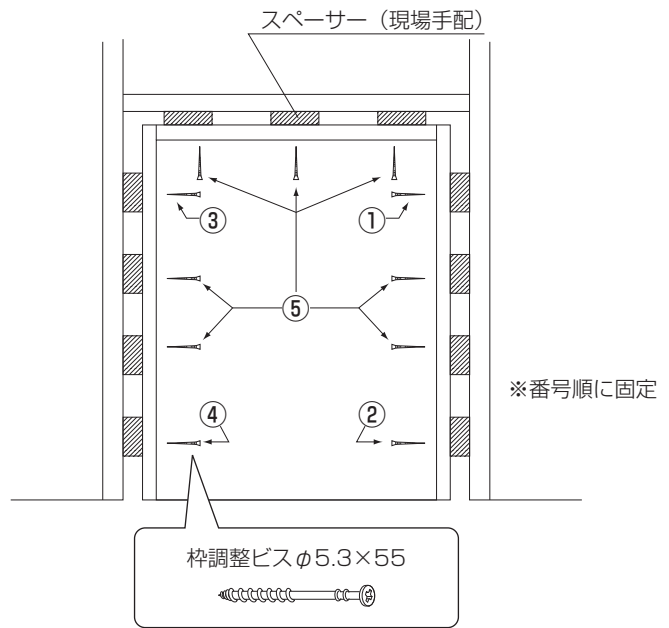
④ 下げ振りをを使って垂直をだしてから、縦枠の下部を仮固定してください。



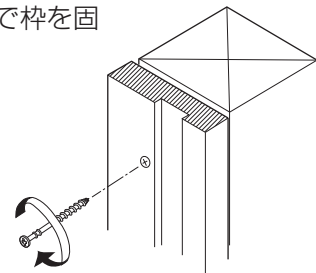
④-2 枠の左右調整は右記の様にしてください。



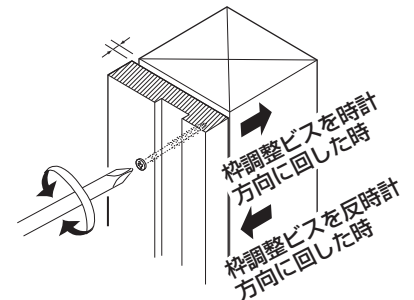
⑤ 枠の前後、左右のたわみがない様に調整後スペーサーを取付けて、残りの枠調整ビスで本固定してください。



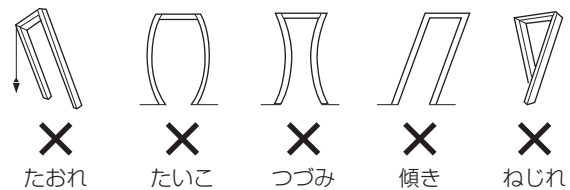
(1) まず枠調整ビスで枠を固定します。



(2) 枠調整ビスを回すことで、柱と枠の間の隙間を調整することができます。

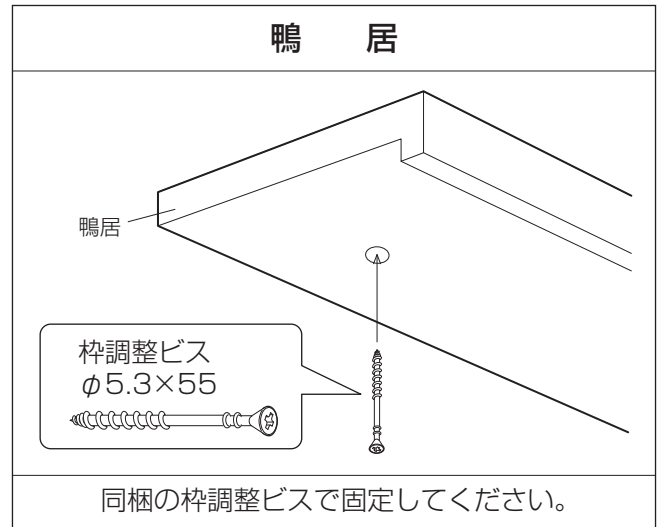
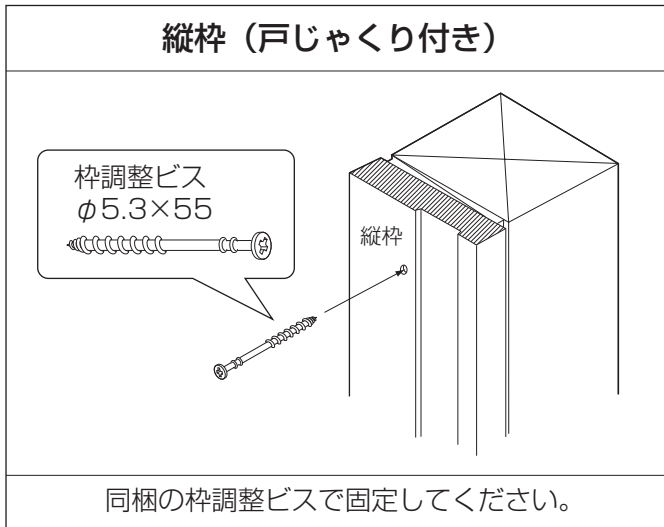


注意 枠調整ビスでの調整には必ず手動ドライバーをご使用ください。



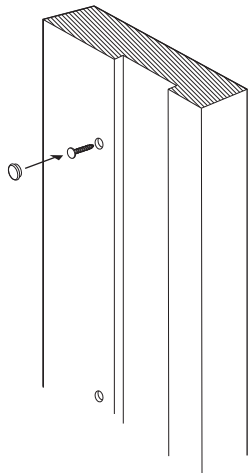
注意 上記のようなことがあった場合扉が閉まらない場合があります。

2. 開口部への枠の取付

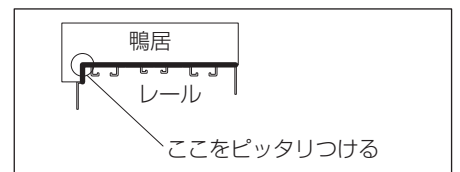
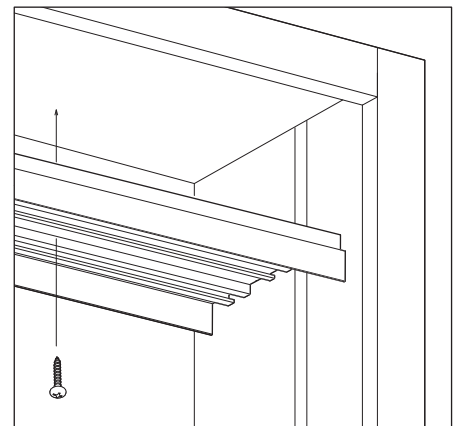
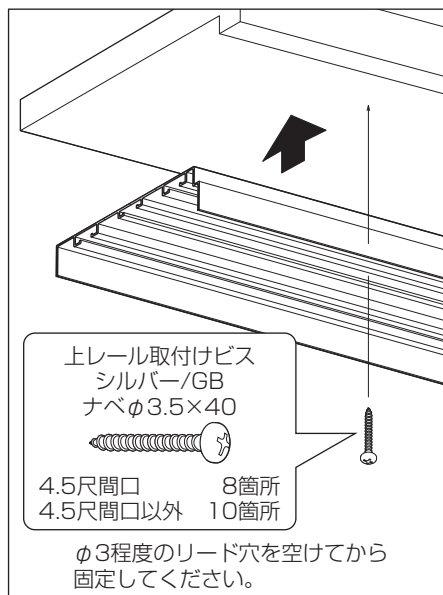


3. 穴隠しキャップの取付

引戸穴隠しキャップをビス頭にはめ込んでください。



4. 上レールの取付



※連動ユニットは取付済出荷です。

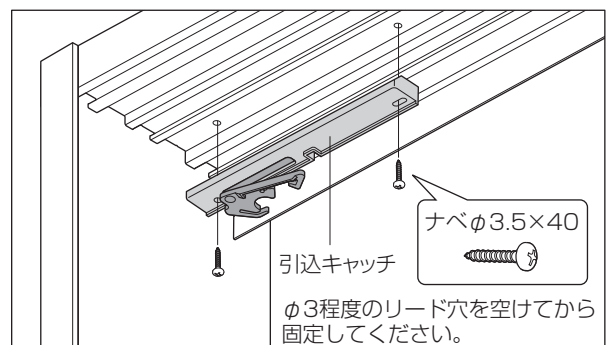
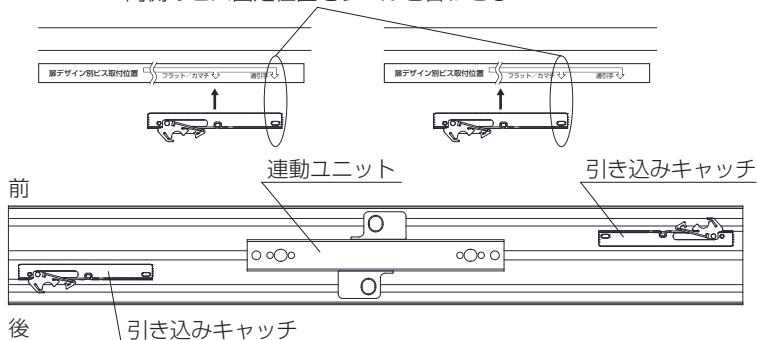
5. 引き込みキャッチの取付

向きに注意して(右図のとおり)取り付けてください。
引き込みキャッチは扉のデザインによって取付位置が異なります。
上レールに貼り付けてあるラベルでビス固定位置を確認してください。

●通引手タイプの場合

●フラット/カマチタイプの場合

内側のビス固定位置をラベルと合わせる



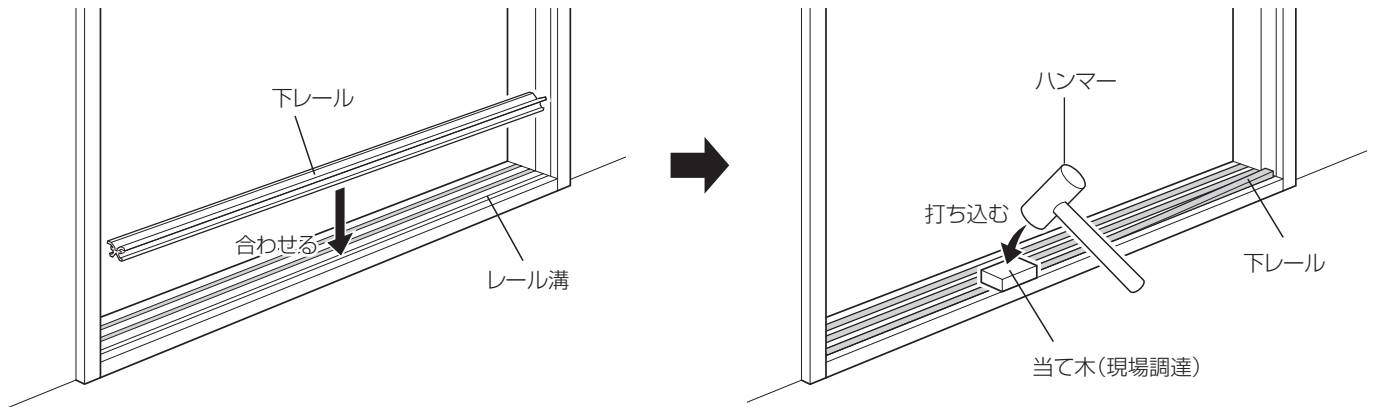
5. 施工方法 (P6のつづき)

6. 下レールの取り付け (四方枠の場合)

下枠のレール溝に下レールを合わせ、当て木 (現場調達) をしながらハンマーで下レールを打ち込む。

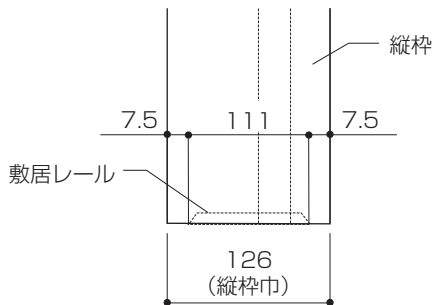
◆ 施工上のご注意

下レールは波うたないように注意すること。



7. 敷居レールと戸じゃくりスペーサーの取付 (三方枠の場合)

敷居レールを枠につきつけてから、ビスで固定してください。

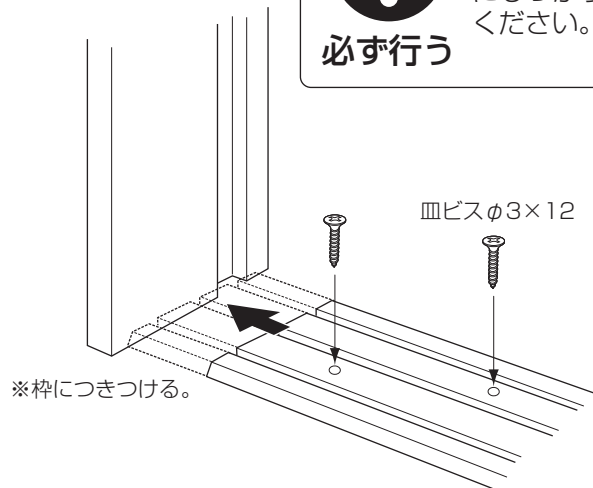


敷居レールは縦枠に対して中央になる様に配置し、固定してください。

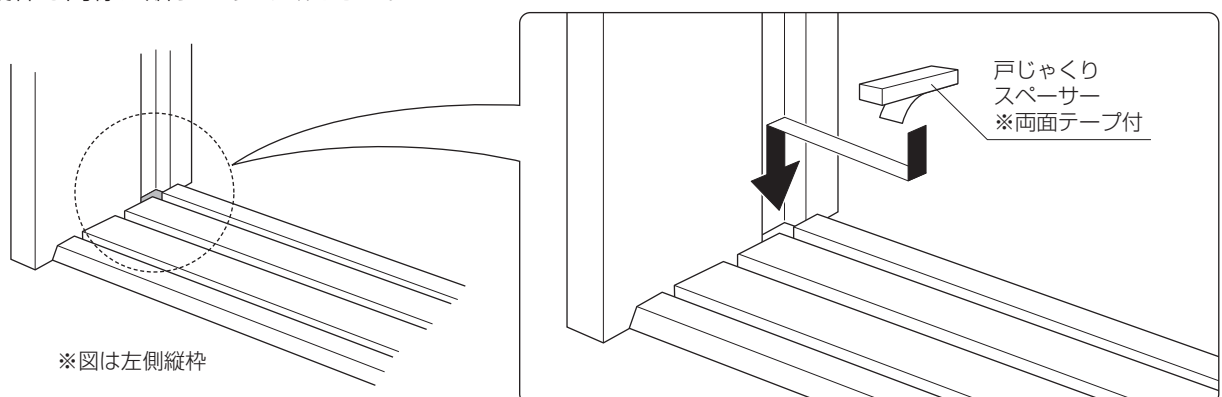


皿ビスの頭がレールより飛び出ないようにしっかり固定してください。

必ず行う



縦枠の戸じゃくり部とレールのスキマに同梱の戸じゃくりスペーサーを貼りつけてください。右側縦枠も同様に貼りつけてください。

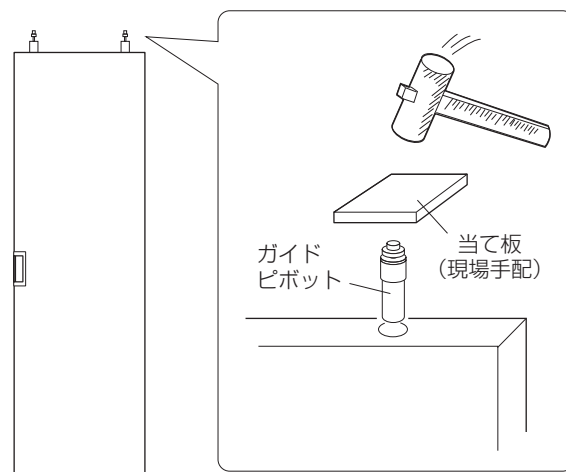
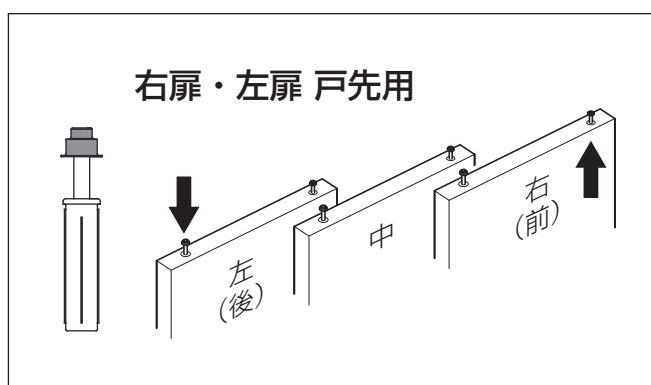
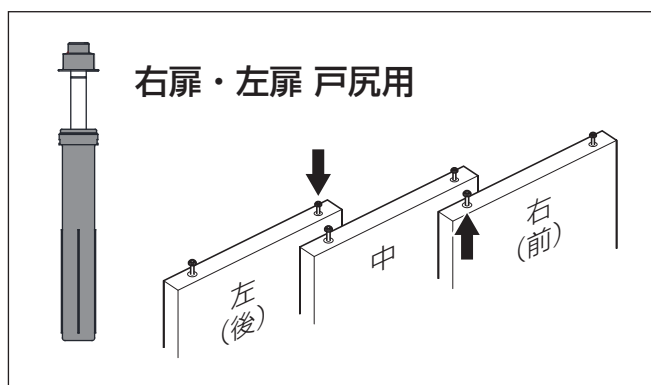
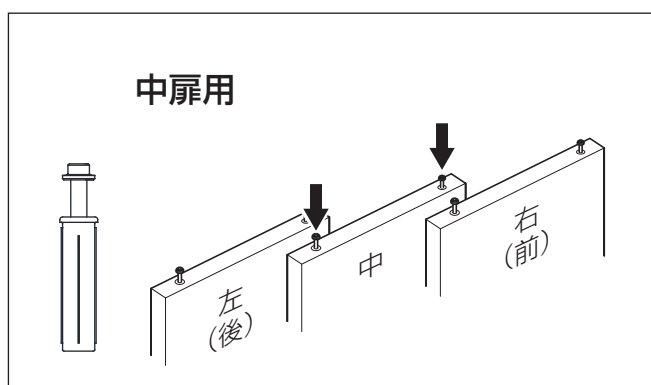


8. 引手の取付

引手が別梱の場合、取付方法は引手セットに同梱の取付説明書をご覧ください。

9. ガイドピボットの取付

扉上部にガイドピボットを取付けてください。



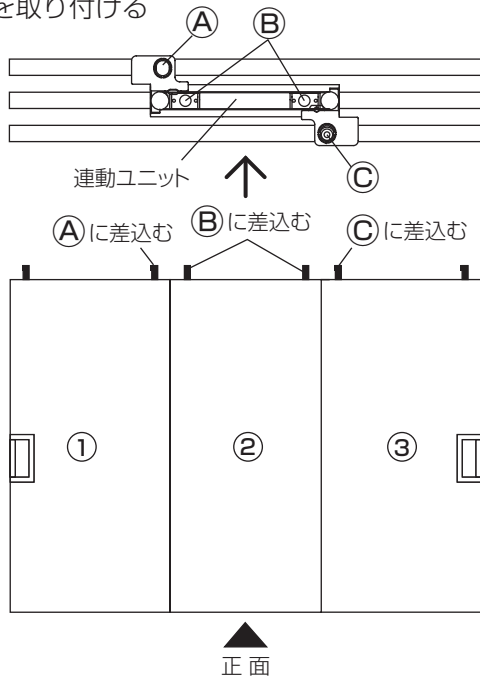
必ず守る

ガイドピボットを打ち込む際は必ず当て板をあてて打ち込んでください。
ガイドピボットが破損する恐れがあります。

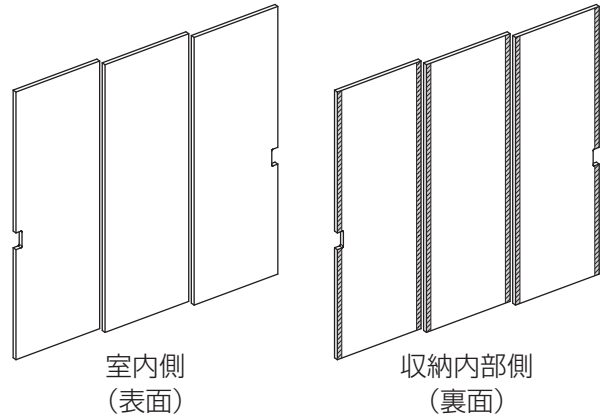
5. 施工方法 (P8のつづき)

10. 扉のはめこみ

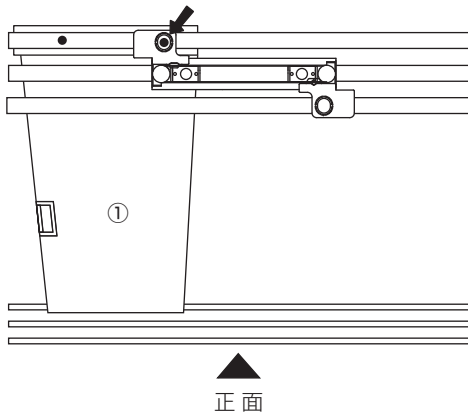
1. 扉を取り付ける



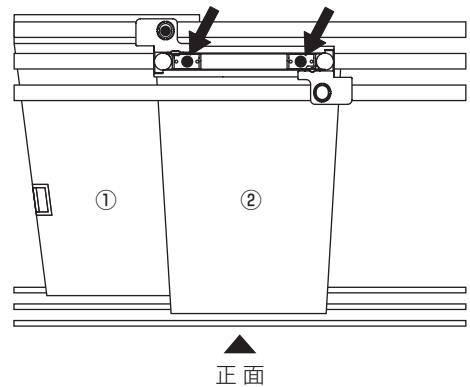
※扉には室内側と収納内部側があります。
シートの継ぎ目がある側を収納内部側にして施工してください。



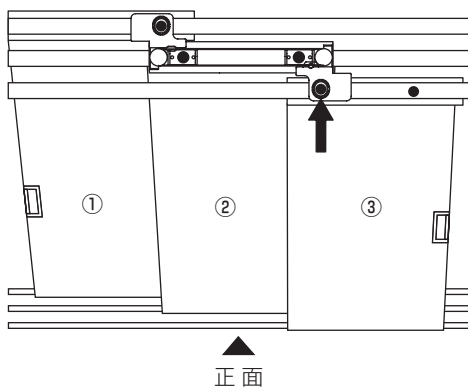
2. 正面より左奥扉①上部右のガイドピボットを下図矢印部の穴にはめ、上部左のガイドピボットを上レールに合わせながら下レールに戸車を乗せて下さい。



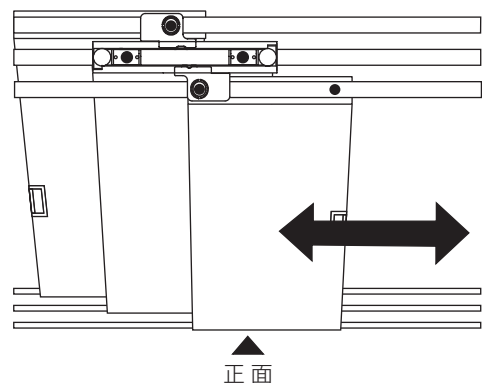
3. 中扉②上部左右のガイドピボットを下図矢印部の穴に各々セットし、下レールに戸車を乗せて下さい。



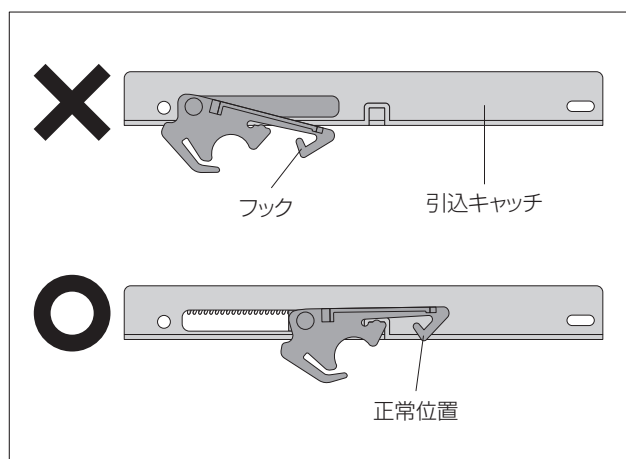
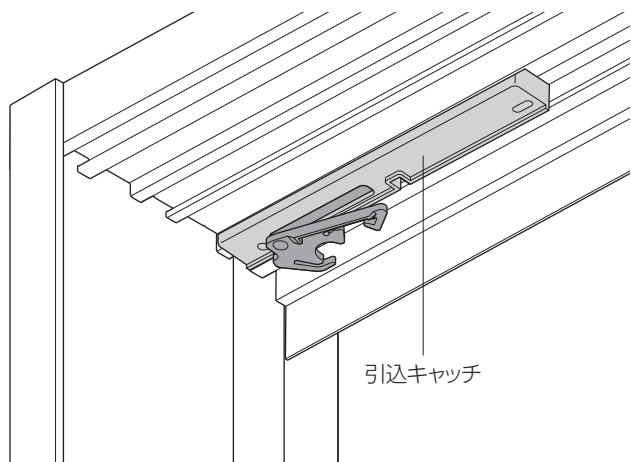
4. 右手前扉③上部左のガイドピボットを下図矢印部の穴にはめ、右ガイドピボットを上レールに合わせながら下レールに戸車を乗せて下さい。



5. 取り付け後、3枚連動扉が作動するか数回作動確認下さい。

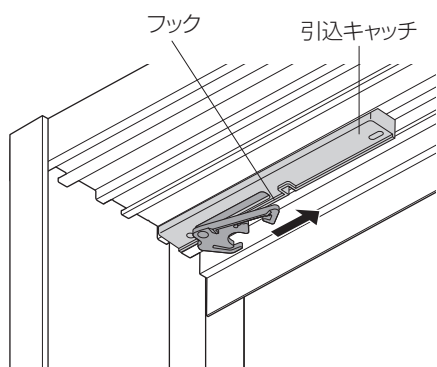


上レールに取付られた引込キャッチのフックが、
 下図の × の状態になっていないか確認してください。
 × の状態になっている場合は以下の要領で復帰してください。

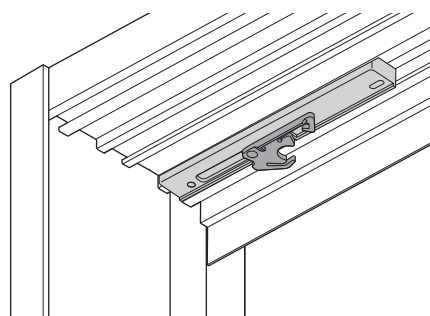


〈調整方法〉

扉を開閉すると、○の状態に自動復帰します。
 それでも治らない場合は、下記の通り復帰してください。



フックを矢印の
 方向にスライドさせる



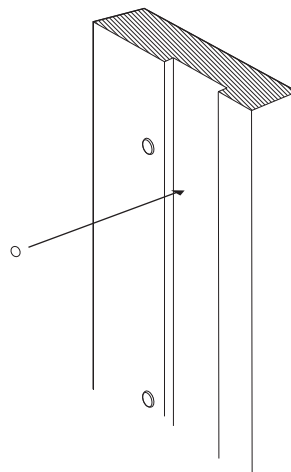
フックの正しい位置
 (確認)

扉を閉めると、自動的に
 扉を引き込むことを
 確認する。

ソフトクッションの取付け

ソフトクッション (両面テープ付) を縦枠
 に取付けてください。(左右各2箇所ずつ)

取付位置目安：上端・下端より
 100mm~400mm程度の位置



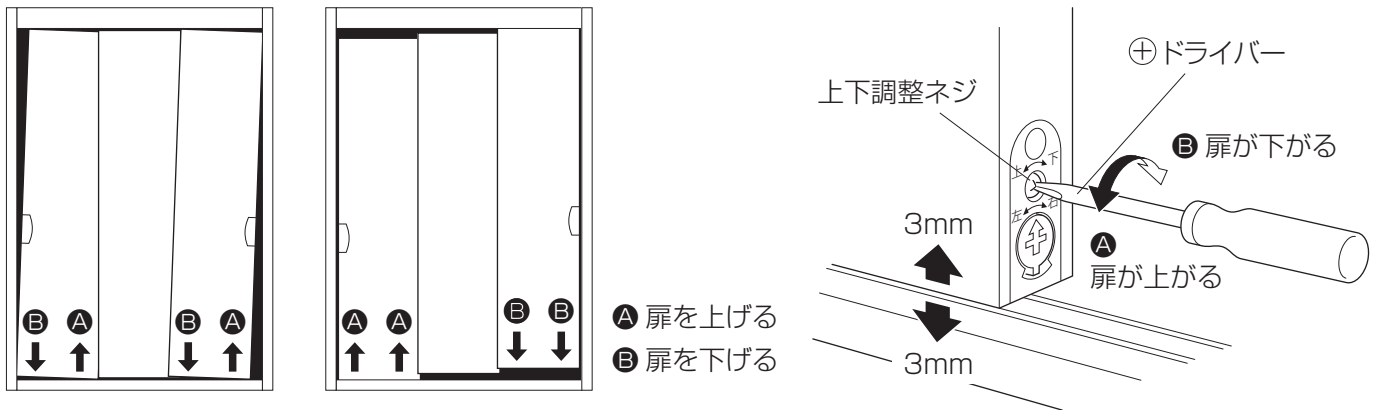
5. 施工方法 (P10のつづき)

11. 戸車の調整

扉を開閉して、扉が枠と当たる場合は、戸車にて扉の傾きを調整してください。

上下調整 (調整可能範囲: ±3mm)

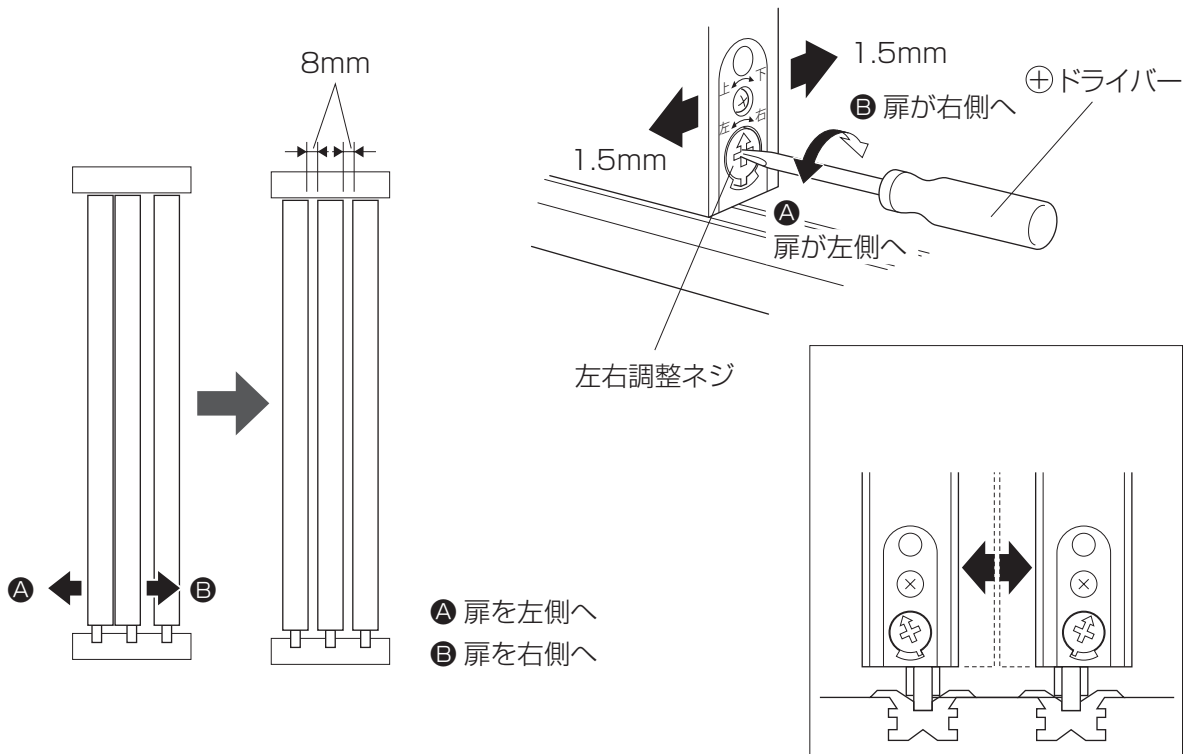
戸車の上下調整ネジを、下図の要領で調整する。



注意 調整には必ず手回しドライバーをご使用ください。
電動ドリルを使用すると、調整ネジが破損する恐れがあります。

左右調整 (調整可能範囲: ±1.5mm)

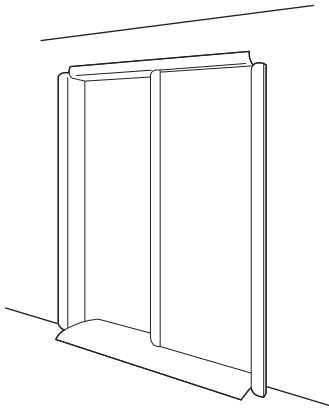
戸車の左右調整ネジを、下図の要領で調整する。



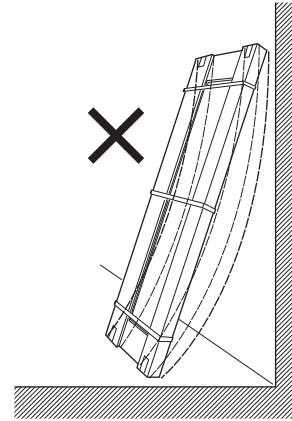
注意 調整には必ず手回しドライバーをご使用ください。
電動ドリルを使用すると、調整ネジが破損する恐れがあります。

12. 養生

工事が完成するまで扉・枠をダンボールなどで養生してください。



※扉は梱包ケースに再度入れ、平積み保管してください。



※扉を壁にたてかけて保管しないでください。

ホルムアルデヒド発散区分資料

施工業者様用

DAIKEN クローク収納

F☆☆☆☆
(住宅部品表示ガイドラインによる)

この度はDAIKEN クローク収納をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本製品のホルムアルデヒド発散に関する性能担保は下の図表のようになっております。建築確認の際に本資料をご利用ください。

●製品の構成とホルムアルデヒド発散区分

規制対象外 (F☆☆☆☆)

| 構成部位 | 内装仕上げ部分 (表面) | | 内装仕上げ部分 (裏面) | |
|-------|---------------------------|---------------------------------|--------------|-------|
| | 材 料 発散区分 | 備 考 | 材 料 発散区分 | 備 考 |
| ①扉：面材 | 化粧MDF 規制対象外 (F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会 表示登録品：K-002058 | 表面と同じ | 表面と同じ |

規制対象外部位・告示対象外

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 枠／見切り | 規制対象外部位：規制対象外 (F☆☆☆☆) 同等品質材料を使用 |
| 戸車／レール／引手 | 告示対象外 |

◎製品に関する情報・お問い合わせ 最寄の弊社営業所に問い合わせいただくか、
弊社ホームページ (<https://www.daiken.jp/>) をご利用ください。

長期安全に使えるように施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

危険の定義とシンボルマーク

この説明書では、「注意事項」を以下のような定義で使用しています。

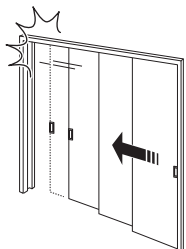
⚠ 注意 取扱を誤った場合、施工者または使用者が傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害の発生が想定される場合

使用上のご注意

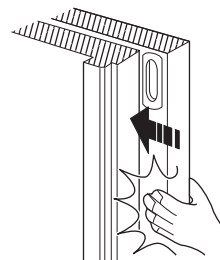
⚠ 注意

- 片側を開けた状態で反対側をもって勢いよく閉めないでください。連動部品が破損する恐れがあります。

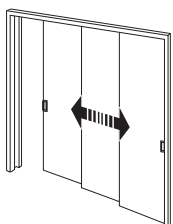
※ 右側・左側どちらもです。



- 扉と枠の間や、扉どうしの隙間に指をはさまないように注意してください。特に小さなお子様には十分ご注意ください。



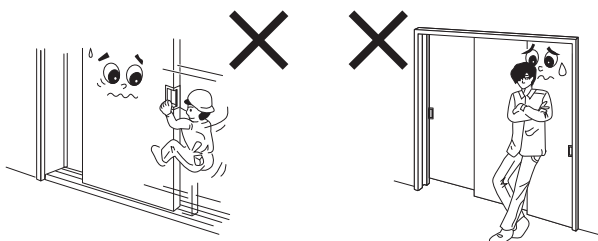
- 扉の開閉は、静かに行ってください。乱暴に扱くと扉や部品が破損したり脱落する恐れがあります。



- ストープ等の熱源を近づけないでください。扉が反ったり、表面がゆがんだりすることがあります。



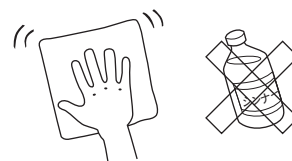
- 扉にぶつかったり、扉にもたれたりしないでください。扉が破損したり、脱落する恐れがあります。



- 窓際など直射日光が長時間当たりやすい場所は、表面の日焼けによる変色の恐れがあります。カーテンやブラインドで直射日光をさえぎるようにしてください。

お手入れの方法

- 扉や枠の清掃は、乾拭き又は中性洗剤を薄めて、硬く絞って拭いてください。シンナー・ベンジン等を使用すると、表面の艶が変わったり、変色する場合がありますので、避けてください。



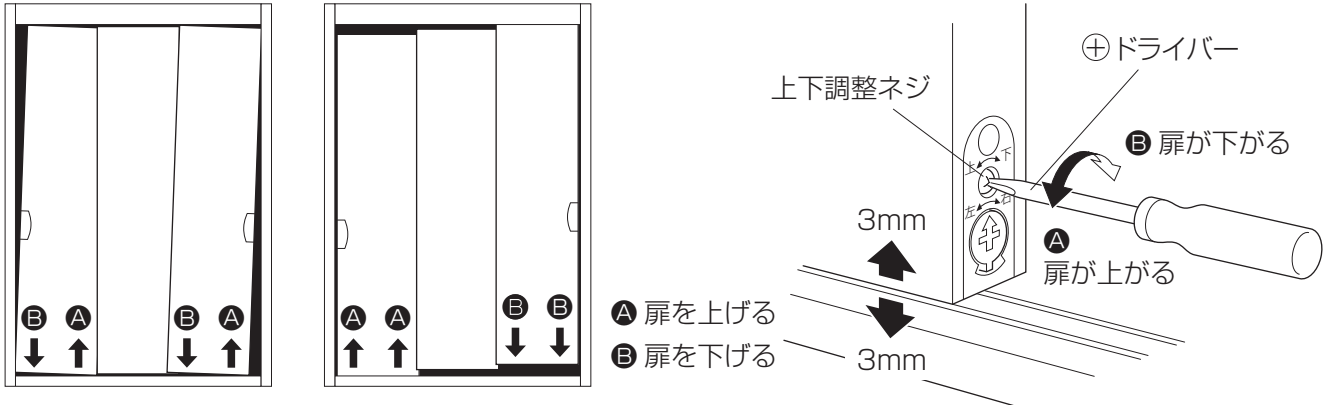
- 敷居レールにゴミやほこりがたまると引戸の走行に支障を生じたり、敷居レールが傷ついたりする可能性がありますので、掃除機などでこまめに掃除をしてください。

扉のかたむきが発生した場合

扉を開閉して、扉が枠と当たる場合は、戸車にて扉の傾きを調整してください。

上下調整 (調整可能範囲: ±3mm)

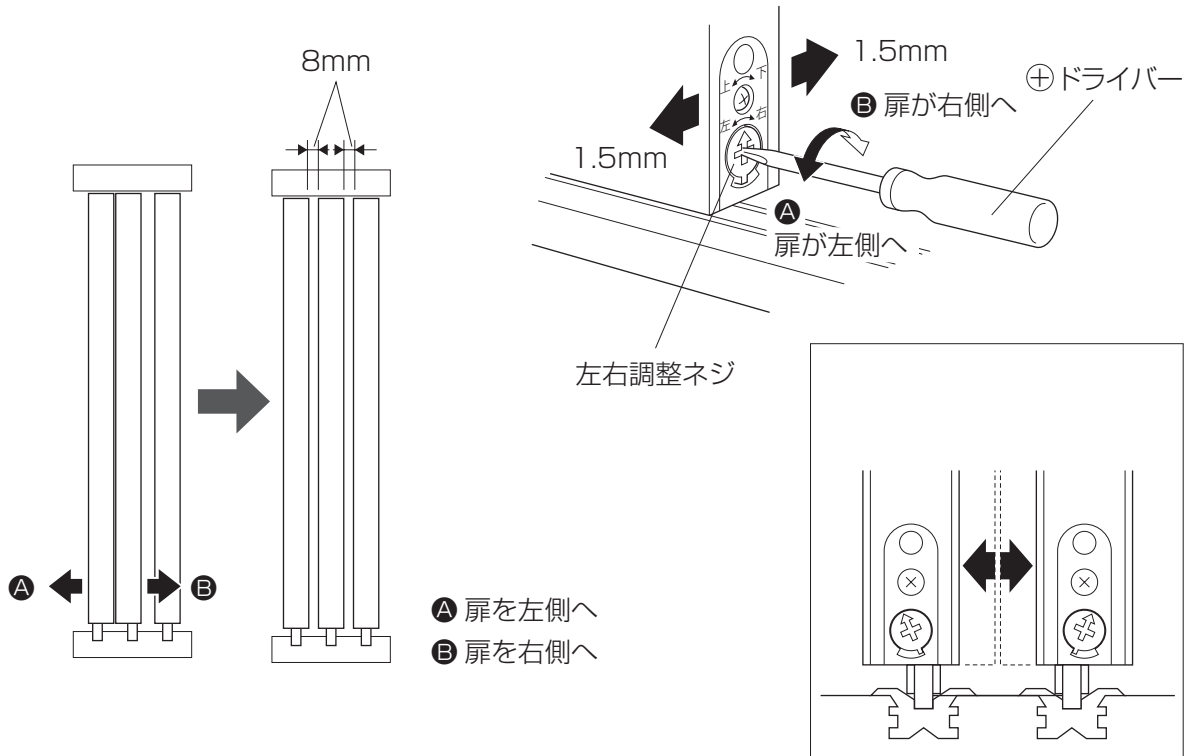
戸車の上下調整ネジを、下図の要領で調整する。



注意 調整には必ず手回しドライバーをご使用ください。電動ドリルを使用すると、調整ネジが破損する恐れがあります。

左右調整 (調整可能範囲: ±1.5mm)

戸車の左右調整ネジを、下図の要領で調整する。



注意 調整には必ず手回しドライバーをご使用ください。電動ドリルを使用すると、調整ネジが破損する恐れがあります。

■定期的な点検項目

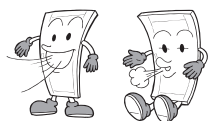
※製品の長期間の使用に伴い、部品等が劣化（経年劣化）を生じ安全上支障が出るおそれがあります。経年劣化による重大事故を防止し、製品を長く安全にご使用いただくために、お客様自身による右記の点検を実施いただきますよう、お願いします。

| 点検部位 | 点検項目 | 兆候有無 | 経年劣化に伴う、具体的な事象 |
|---------|--|------|-------------------------------|
| 本体 | ・引戸の開閉がしにくい(扉と扉、扉が枠にあたる)。 | 有・無 | ・戸車、レールの変形や破損。 ・扉のガタツキ、脱落。 |
| ガイドピボット | ・ガイドピボットは、しっかりレールにはまっているか。 | 有・無 | ・扉のガタツキ、脱落。 |
| 戸車 | ・戸車は、しっかりレールにはまっているか。 ・戸車の動きはスムーズか。 | 有・無 | ・扉のガタツキ、脱落。 |

木質材料の性質について

木製収納扉の「反り」について

木材を原料とする木質材料（合板、パーティクルボード、MDFなど）を加工して作られた内装ドアは、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は内装ドア周辺の温度、湿度等の環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、内装ドアの室内面側と室外面側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。



「反り」の発生を出来るだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

- ① エアコン、暖房器具等をお使いになる場合は、内装ドアに直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。
- ② 夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房等により、室内と室外の環境条件の差を極端に大きくしないでください。
- ③ 内装ドアに直接日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、すだれ等を設けて日光を遮ってください。発生した「反り」は室内側と室外側の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

商品の保証について

商品保証とは、保証期間、保証内容の範囲において故障が発生した場合に、無料で修理をお約束するものです。詳しくは、下記内容をご参照ください。

■対象商品

クローク収納

■保証事項

通常的环境下で、弊社の施工説明書・取扱説明書に準じた正常な施工・使用がなされている状態(前提条件)で、弊社の責任に起因する製品不具合(保証期間参照)を無料で修理します。尚、本内容は日本国内においてのみ有効です。

■保証期間

製品施工完了後2年とさせていただきます。弊社製品の施工完了後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を、無料で修理する期間としています。保証期間経過後の修理については有料となります。

■製品の不具合原因が次のような場合には、保証期間内であっても保証対象外になります。

- ① 建物の設計・施工に起因する不具合
- ② 施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合

- ③ 自然現象・周辺環境等(※1)の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合
 - ④ 室内であっても部屋内外の温湿度差が著しく違う部位に取り付けられたことによる隙間・反り・キシミ音などの不具合
 - ⑤ 極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位に取り付けられたことに起因する不具合
 - ⑥ 建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する不具合
 - ⑦ 入居者又は第三者の不適切な使用又は維持管理等に起因する不具合
 - ⑧ 取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗、磨耗、破損、変形などによる不具合
 - ⑨ 経時変化による通常一般的な当該保証対象品の変色、汚れ、さび、かび、劣化磨耗などの不具合
 - ⑩ 用途外に使用された場合の故障および損害
(例えば、一般家庭用を業務用に、屋内用を屋外に使用された場合等)
 - ⑪ 犬・猫・鳥・鼠などの小動物の害に起因する不具合やキクイムシなどの虫害に起因する不具合
 - ⑫ 仕上げ面のキズなどの不具合で引渡し時に申し入れがなかった場合
 - ⑬ 保証期間経過後の申し出、または不具合発生後速やかに申し出がなかった場合
 - ⑭ 製造時に実用化されていた技術では予測することが不可能な事象に起因する場合
 - ⑮ 離島などの遠隔地へ出張を要する修理を行う場合、出張に要する実費
 - ⑯ その他当該不具合の発生が弊社の責によらない場合
- ※1：火災・地震・水害・落雷などの天災地変や、公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

ユーザー登録サービス

製品を末永く安全にご使用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。

ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや暮らしに役立つ情報をDAIKENからご連絡する際に、利用させていただきます。

ユーザー登録は無料です!!

登録はこちらから

<https://www.daiken.jp/qr/user/>



お問い合わせ窓口について

●製品に関するお取扱い、補修、工事などのご相談は、組立て・設置業者、工務店へ。

製品に関するお問い合わせ

DAIKENお客様センター

☎ 0120-787-505

(フリーダイヤル)

●受付時間…平日9:00~17:00

(土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みをいただいております)

<https://www.daiken.jp/qr/form01/>

メールで
写真も
送ることが
できます。



修理・交換部品のご購入の方は

DAIKENパーツショップ

部品のネット販売サイトです。

※購入に際しては登録が必要です。

<https://www.daiken.jp/qr/service/>

DAIKENホームページ ▶ お客さまサポート ▶

▶▶▶ DAIKENパーツショップ



ご相談窓口における
個人情報のお取扱い

DAIKEN株式会社およびDAIKENグループ各社は、当社「個人情報の取扱いに関する方針(プライバシーポリシー)」に則ってお客様に関する個人情報を利用させていただく場合がございます。(DAIKEN株式会社プライバシーポリシーに関しましては、当社ホームページに掲載しております。) なお、電話での相談に対し、折り返し電話をさせていただくためにナンバーディスプレイを採用しています。またご相談内容を正確に把握し、適切に対応するために、通話内容を録音させていただくことがあります。